

じょうろん
序論（レムナントデイの序論から）

なぜ 40日、10日間集まって 集中して祈ったのでしょうか。

40日+10日は、50日です。聖書で50日は、五旬節のことです。マルコの屋上の間で集まって、約束を握って祈っていた人々の上に、五旬節の日に聖霊が臨まれました。そのときから、まことの教会である初代教会が始まりました。



せいさんしき
1. 聖餐式

そのときから、集まるたびに聖餐式を行いました。

聖餐式を通して、イエス・キリストの十字架の恵みによる救いに対する確信と感謝の告白を毎日したということです。

今日も同じです。私たちが毎日、イエス様の恵みでなければ生きることができないことを告白することです。それが毎日死んで生きるというパウロの告白です。

しゅうちゅう
2. 集中

なにに集中したのでしょうか。

私たちは、罪過と罪によって死んだ者です。しかし、そのような私をイエス様が十字架のあがないによってよみがえらせてくださいました。

ガラテヤ 2:20

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。

「私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。」これを再創造と言います。

私たちの霊的状态が変わりました。

死 → いのち = 再創造

(滅亡 → 永遠)

死からいのちに移されたことを「再創造」と言います。

私たちは、最初に創造されたのですが、罪によって死にました。

しかし、キリストとともに、また、生き返らせてくださり、「生きもの」としてくださったので、私たちの残りの人生、いまの人生の主人は、私ではなく「イエス・キリスト」です。

それに集中するのです。



3. 特別祈り

私^{わたし}に対する^{たい}神様の^{かみさま}絶対計画^{ぜったいけいかく}とみこころがあるので、それゆえ、私^{わたし}を生き返らせてくださり、いまのこの世^よ、いま私^{わたし}が住んでいるところに置いてくださったのです。

ときには、いまいるところが、エジプトや^{あらの}荒野のよう^{おも}なところだ^{おも}と思うかもしれませんが、神様^{かみさま}はあきらかにカナンの地^ちを約束^{やくそく}してくださいました。その約束^{やくそく}を握^{にぎ}って、一歩一歩^{いっぽいっぽ}あゆんで生^いきるのです。



4. 定刻祈り

たましいは、みことば^{いの}祈り^いによって生^いきる（いやし）

その神様の計画^{かみさま}とみこころは、「上^{かみさま}から与えられる神様のもの^{けいかく}でなければ私^{わたし}は生^いきることはできません」ということを悟^{さと}らせるための、神様の計画^{かみさま}です。

しんめいき
申命記8:2-3

2 あなたの神^{かみ}、主^{しゅ}が、この四十年^{よんじゅうねん}の間^{あいだ}、荒野^{あらの}であなたを歩^{あゆ}ませられた全行程^{ぜんこうてい}を覚えていなければならない。それは、あなたを苦しめて、あなたを^く試^{こころ}み、あなたがその命令^{めいれい}を守るかどうか、あなたの心^{こころ}のうちにあるものを知るためであった。

3 それで主^{しゅ}は、あなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの先祖^{せんぞ}たちも知らなかったマナ^しを食べさせられた。それは、人はパン^{ひと}だけで生^いきるのではない、人は主^{しゅ}の口^{くち}から出^でるすべてのもので生^いきる、ということ^{こと}を、あなたにわからせるためであった。

使徒^{しと}の働^{はたら}き7章^{しょう}を見ると、殉教^{じゆんきよう}したステパノ^{わたし}が私^{わたし}たちの人生^{じんせい}を荒野^{あらの}の教会^{きやうかい}という表現^{ひやうげん}をします。

ですから、私^{わたし}たちがこの世^よを生^いきている間^{あいだ}、荒野^{あらの}の生活^{せいかつ}です。

それゆえ、神様が上^{かみさま}から与えられるみことば^いでなければ生^いきることができないのです。

毎日^{まいにち}、私^{わたし}たちは食事^{しょくじ}を3回^{かい}食べます。そのように食事^{しょくじ}をするように、祈り^{いの}を通してみことば^うを受けなければなりません。

また、上^{うへ}から与えられる神様のもの^{かみさま}は祈り^{いの}です。

祈り^{いの}とは、私^{わたし}たちが神様^{かみさま}になにかをささげる行為^{こうい}だと思^{おも}う人^{ひと}がいますが、（もちろん、神様^{かみさま}に出^だすことですが、それ以前^{いぜん}に）神様の願^{かみさま}われることが私^{わたし}を通してこの地^ちに成就^{じやうじゆ}するためにするのが祈り^{いの}なので、まず、神様^{かみさま}から私^{わたし}たちに来るのが祈り^{いの}です。

ローマ8:26「…御霊^{みたま}ご自身^{じしん}が、言^いいようもない深^{ふか}いうめきによって、私^{わたし}たちのためにとりなしてくださいます。」私^{わたし}たちの内^{うち}におられる聖霊^{せいれい}の神様が、私^{わたし}のために祈^{いの}ってくださると言^いわれています。

祈り^{いの}も、神様^{かみさま}から来るものです。それが、神様^{かみさま}との霊^{れい}的呼吸^{てきききゅう}です。

つまり、神様^{かみさま}が私^{わたし}たちに祈^{いの}らせてくださるのです。

そのときこそ、まことのいやし^{おこな}が行^{おこな}われます。



ヘブル 4:12

神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

みことばは、神様です。神様が私たちの中に入っておられるとき、私たちの中に残っている創世記3、6、11章の自己中心、物質中心、成功中心の残り跡は、切り落とされなければなりません。両刃の剣よりも鋭いみことばが入って、私たちのすべてを刺し通されて、私たちの手術をされます。みことばが、たましいと霊、関節と骨髄を刺し通すとき、痛いでしょう。

私がいのちのように思っていた世の中の価値（家族、お金、名誉、人気など）それらは、結局「自分」です。自分の生きる理由、存在の理由が、この世のものであるとき、私から切り落とされるとき、みことばによって刺し通されるとき、痛いのは当然です。神様は麻酔注射を打ってくださいません。ただ切り落とされます。それが苦難、患難に思えるかもしれません。自分のいのちのように思っていたこの世のものが、私から切り落とされるからです。10月の第2課の金持ちの青年の話、1課にある1万タラントの借金のある人のたとえがそれです。

5. まことの答え

そのように神様が私の考えと心を掌握するとき、ほんとうに、まことの天の答えを味わうことができます。それが御座の力です。

私たちは、すでに完成された神の国を約束してもらっています。

ですから、いまは時間と空間の制約がある世を生きていますが、時空を超越した神の国、御座の力の祝福をこの世でも味わうことができます。それがまことの答えです。



学院福音化の序論を通して受けた5つのことを一か月間黙想しましょう。